

論文審査の結果の要旨

論文提出者氏名 石黒 周

本論文は、日本の従来の長期的研究システムの問題点を抑制する新たな長期的研究推進のための仕組みを提示し、その有効性を実証したものである。科学技術計画論において、我が国の長期的研究システムに関する研究の多くは、既存の産、学、官の3つのセクターのいかなるパターンとの連携を組むべきかが主要な論点であった。これに対し、本論文は、別の新たな選択肢を提示し、その有効性を実証しており、その意義は高く評価される。

本論文は8章からなる。第1章は序論であり、研究の背景と目的が述べられている。第2章では、日本の従来の長期的研究システムである、企業の中央研究所、大学等のCOE、国家研究プロジェクトの問題点を明らかにしている。又、種々の先行研究に基づいて、長期的研究推進に対する評価項目を設定している。

第3章では、RoboCupという西暦2050年にゴールを持つ長期的研究プロジェクトを分析し、ビジョンドリブン組織、NPO組織、ゆるやかな階層制組織、科学者共同体という4つの組織構成上の特徴を持つこと、および、組織の運用上の特性としてビジョンドリブン性、競争と淘汰性、オープン性、協働性、低制約性、自律分散性、サムシングニューイズム、非専門家に対する閉鎖性を持つことを明らかにしている。さらに、その組織特性により、RoboCupが日本の従来の長期的研究システムの問題点を抑制、補完し得る仕組みであることを示している。

第4章では、RoboCupの主要な活動を第2章で設定した評価項目で分析し、RoboCupが全ての評価項目を満たし研究推進に成功していることを明らかにし、さらに、第5章では、論文提出者が考案した4つのマネジメント施策を実施しその有効性を実証している。

第6章では、RoboCupと同じ組織上の特性とマネジメント施策を持つ長期的研究推進のための仕組みを「NPO型分散研究システム」と名付け、この仕組みを持つ別の新たな2つの研究システムとして、国際レスキューシステム研究機構とシステムバイオロジー研究機構を立ち上げその運用がなされた実績が述べられている。

第7章では、これらの2つのNPO型分散研究システムの活動実績を長期的研究推進の各評価項目に対して参与観察とインタビュー調査に基づいて評価し、両者が、その研究の推進に成功していることを明らかにしている。

第8章は結論であり、本研究で得られた結果が要約されている。

以上のように本論文は、日本の従来の長期的研究システムの問題点を抑制、補完する新たな仕組み「NPO型分散研究システム」を提示し、その組織の構成上と運用上の特性と有効なマネジメント施策を実証的に明らかにした。さらに、これに基づいて新たに2つの実研究システムを構築・運営することで、他にも適用可能な仕組みであることを明らかにしたものであり、科学技術計画論分野の研究成果として高く評価できる。従って、本審査委員会は博士(学術)の学位を授与するにふさわしいものと認定する。